

2017年度(平成29年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 30	福山市立新市中央中学校
最終更新日	2018年(平成30年)2月28日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 評価指標と達成評価の整合性を明確にして欲しい。 結果も大切だが、プロセスをより大切にして欲しい。 引き続き、保護者や地域と連携して、教育活動を推進して欲しい。 学校と地域の関係が密接なので安心している。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の県調査では小学校1校だけが全てで県平均を上回った。活用と論理的思考力の向上が課題。 新市スタンダードの生活4項目は全体的に良好。自己肯定感の向上が課題。 昨年度の新体力テストでは小学校1校以外は県平均を下回る種目が多い。 福山への愛着は、小学校は良好であるが、中学校は充実を図ることが課題。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>よりよくかんがえる力、チャレンジする力、つながる力</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、深めたり広げたりする子ども 自分の考えを、相手に分かりやすく伝え、納得させようとする子ども 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組もうとする子ども 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題の解決策を創造しようとする子ども 国語では説明文教材を通して構成を読み取る力を付ける授業づくり。 算数・数学では主体的に学び合うことを通して筋道立てて表現する力を付ける授業づくり。 地域をテーマにしたふるさと学習が小中で円滑に接続できるようカリキュラムの改善を図る。 新市スタンダード学習5項目(準備、チャイム、話を聞く、姿勢、家庭学習)、生活4項目(挨拶、言葉づかい、身だしなみ、掃除)の徹底。
---	---	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>「夢を描き、その実現に向けて努力し続ける生徒」を育て、生徒・保護者及び地域社会の期待に応える学校づくりを推し進める。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p>	<p>よりよくかんがえる力</p>	<p>チャレンジする力</p>	<p>つながる力</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心を持ち、主体的に問題解決に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識やスキルを活用し、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、判断や意思決定をしている。 自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、相手に分かりやすく伝えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を立て、見直しを持って取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや違いを認め合い、協働して課題解決をしようとしている。
<p>現状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 県調査結果では、国語のタイプI、英語のタイプI・IIが県平均を上回っている。全国学力・学習状況調査では、すべての教科で全国平均を下回っている。 「比較・分類・関連付けて考える」生徒71%、「分かりやすく伝わるよう工夫する」生徒68%である。 「自分の目標を持って努力している」生徒78%、「部活に目標を持って参加している」生徒71%である。 新市スタンダードでは、準備82%、チャイム95%、話を聞く85%、姿勢80%、家庭学習66%、挨拶92%、言葉づかい93%、身だしなみ99%、掃除98%である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 「自ら考え学ぶ授業」を理解して、個人のアクションプランに基づいて、全教員が授業改善に取り組んでいる。「生徒の主体的な学びを高めるために、意欲・関心の持てる学習課題を設定する」95%、「よりよく考えさせるために、自分の考えや他者の考えを書かせる」74%、「わかりやすく伝えられるようにするために、ペアやグループで話し合う場面を設ける」58% しかし、実際の授業では、教員がすぐに答えを言ってしまうたり、一問一答だけになったり、しゃべり過ぎたりして、変わっていかない面も見られる。 	<p>2・3年</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識やスキルを活用し、情報を比較、分類、関連付けて考え、互いの考えを検討し合い、深めたり広げたりして、判断や意思決定をしている。 自分の考えを、学習した用語や図、表、グラフを用いて、相手に分かりやすく伝え、納得させようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標と目標達成に向けた計画を立て、取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや違いを認め合い、自ら積極的に他者とかかわり、協働して課題の解決策を創造しようとしている。 	
	<p>研究</p>	<p>教科等</p> <p>道徳</p>	<p>(研究主題) 思考力・表現力の育成</p> <p>(研究内容) ・それぞれの教科で、どのように考えさせ、どのように伝えさせるのか。</p> <p>・「考え、議論する道徳」に向けて、どう改善していくのか。</p>	
	<p>めざす授業の姿</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「なぜ」とか「どの考え方が使えるか」、「他のやり方は」、「分かりやすい伝え方は」と考えさせようとする授業(よりよく考える力) 毎時間の目標を意識させ、その達成に向けて意欲的に取り組ませ、達成できたかをきちんと振り返らせる授業(チャレンジする力) 他者とかかわり、協働して課題を解決しようとする授業(つながる力) 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立新市中央中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
							□指標に係る 取組状況	力以 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	力以 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策	
1	「自ら考え学ぶ 授業」の推進	★	継続	よりよく考える 力を育成する。	どのように考えるの か、表現させるのかを 意図的・継続的に指導 する。	・比較・分類・関連 付けて考える生徒 75% ・分かりやすく伝わ るよう工夫している 生徒 70%	□比較・分類・関連付 けて考える生徒 76% □分かりやすく伝わ るよう工夫している 生徒 73%	4	4	学力調査結果分析 に基づき、年間指 導計画を見直し、 意識的な指導を行 う。特に、資料の 活用や日常生活と の関連での指導改 善を図る。	□考える生徒 79% を伝える生徒 75% ◎よりよく考え、分 かりやすく表現しよ うとする意識は向上 している。	4	4	4	引き続き、資料を 活用する授業や、 問いに対する自分 の考えや他者の考 えを書かせる授業 を仕組んでいく。	
			★	新規	チャレンジする 力を育成する。	適切な目標を設定し、 生徒に振り返らせ、そ れを評価する。	・目標を意識して授 業をする生徒90% ・目標に沿って振り 返る生徒95%	□目標を意識して授 業をする生徒91% □目標に沿って振り 返る生徒93%	4	4	意欲・関心の持て る目標や学習課題 を設定し、振り返 りの時間を確保す る。	□目標を意識する生 徒 89%、振り返る 生徒 95% ◎目標を意識し、振 り返ることはでき たが、受け身の姿 態である。	4	4	4	引き続き、意欲・ 関心や疑問の持 てる学習課題を 設定し、意欲的・ 主体的な学びに 高めしていく。
			★	新規	つながる力を育 成する。	年間指導計画に基づ き、協働して課題解 決をさせる活動を仕 組む。	仲間とともに解決方 法を出し合い、一緒 に取り組むことを大 切にする生徒70%	□仲間とともに解決 方法を出し合い、一 緒に取り組むこと を大切にする生徒 86%	4	5	年間指導計画を見 直し、協働して課 題解決させる活 動の充実を図る。	□協働活動を大切 にする生徒 88% ◎協働して取り組 む意識は向上して いる。	4	5	5	引き続き、年間指 導計画に基づき、 協働して課題解 決をさせる活動 を仕組んでいく。
			継続	教職員の授業力 を高める。	・年間指導計画やア クションプランに基 づく授業改善を進 めるとともに、一 斉研修での学びも 生かす。 ・「考え、議論する 道徳」に向けた計 画的な校内研修を 行う。	一斉研修や校内研 修で学んだことが自 身の授業改善に役 立っている教職員 45%	・7月の校区研修で 道徳、英語、体育 の授業研修を行 った。 ・夏期校内研修で 道徳、授業改善の 研修を行った。 □授業改善に役立 っている教職員 74%	3	3	・年間指導計画に 基づいて作成する 単元シートの充実 を図る。 ・下半期の校内研 修計画を見直し、 充実を図る。	□学んだことが役立 っている教職員 79%、アクション プランを意識して 授業改善に努める 教職員 95% ◎授業力向上を感 じる教職員が昨年 の 35%から 70% に増加。	3	4	4	引き続き、年間指 導計画やアクション プランに基づく 授業改善を進め るとともに、ア クション研修や校 内研修の学びを 日々の実践に活 かしていく。	
1	市民一丸となっ た取組の推進	★	新規	チャレンジする 力を育成する。	部活動で、チームや 個人の目標と、達成 に向けた計画を立て させ、定期的に振 り返させる。	部活動に目標を持 って参加している 生徒 75%	□部活動に目標を持 って参加している 生徒 82%。	4	4	部長会を定期的 に開催して、目標 達成に向けた活 動状況を振り返 らせ、改善方策 を考えさせる。	□目標を持って参 加の生徒 (12年) 83% ◎各部が目標達成 に向けて、意欲 的・計画的に活 動できている。	4	4	4	引き続き、部長 会を月に1~2回 開催する。目標 設定の仕方を統 一して、活動状 況を振り返らせ る。	
			新規	生徒の地域貢献 活動を推進する。	ボランティア活動の 頑張りや評価する とともに、それを 各種便りで発信 する。	ボランティア活動 経験(校外+PTA 整備)のある生 徒 80%	□経験した生徒 72% ・全校集会での 紹介を始め、各 種便り等で評 価している。	4	3	引き続き、地域 行事への積極 的な参加を進 めるとともに、 しっかりと評 価していく。	□経験した生徒 80% ◎PTA や小 学校、地域の 協力を得なが ら活動させる ことができた。	4	4	4	引き続き、生徒 の頑張りや評価 するとともに、 それを各種便 り等で評価 していく。	

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準
5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。